



昭和大学藤が丘病院

No.1



地域医療連携 ニュース



TOPICS

- 総合サポートセンター長ご挨拶
- 入退院支援部門について
- 内視鏡センターのご紹介
- 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室 TEL:045-974-6701
FAX:045-974-4325



総合サポートセンター長
門松 香一

Koichi Kadomatsu

はじめまして、私は昭和大学藤が丘病院で総合サポートセンター長を仰せつかっております、門松香一と申します。

昭和大学藤が丘病院総合サポートセンターは、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務職員など多職種を持って構成しております。その業務内容は、入院前支援・退院支援、患者相談、医療・看護相談、社会福祉相談、そして医療サービス全般に関するご意見・ご要望など院内や地域の関係機関と連携して早期から問題解決に向けた支援を行っています。

昭和大学藤が丘病院では二人主治医制を導入しておりますが、「二人主治医制」とは、患者さん一人に対し、当院の医師と地域の「かかりつけ医」が互いに連携しながら共同で継続的に治療を行うことです。かかりつけ医の先生方には、経過

観察や日常の診療を行っていただき、定期的な専門的検査や急変時の診療を当院で受診していただきます。地域との繋がりを大切にしながら、入院を問わず全ての患者さんやご家族に対して、適切で満足のできる医療の提供はもとより患者さんの様々な心配事や悩みなどについても丁寧な支援を行うことでより良いサービスができるように努めております。総合サポートセンターでは、月 2,500 件程度の相談があり随時適切に対処しておりますが、皆様のご意見を参考にして毎週（必要時には臨時で）チームメンバーを招集し、発生した問題を早期に解決するように会議を行っています。さらに大きな問題は月に 1 度開催される病院幹部も参加する総合サポートセンター運営委員会で話し合われるようになっております。

今後も総合サポートセンターとして更なる充実した患者さんの支援を続けていくためには、患者さんだけではなく医療関係者から藤が丘病院の医療態勢を評価していただき、ご指導ご鞭撻をお願いできれば幸いです。最後に、日頃から昭和大学藤が丘病院を支えていただいている地域の先生方や患者さんに深く感謝申し上げます。

入退院支援部門について

藤が丘病院総合サポートセンターは、ソーシャルワーカー4名、看護師5名が配置されており、入退院支援を行っています。

高齢化に伴い独居や老老介護の問題、医療費や生活費などの金銭問題、ヤングケアラーなど様々な困難を抱えている患者さんやご家族も増加している昨今、私たち医療機関は急性期医療の提供のみならず、社会的課題にも目を向けて支援していくことが必要となっています。

入院にあたり心配や気がかりがなかなど、入院前から患者サポートセンターの看護師が情報収集をしており、入院と同時に情報共有した私たち入退院支援部門がスムーズな退院にむけて調整介入しています。

ソーシャルワーカーは、社会福祉的視点で、経済問題や制度活用などの支援を行ったり、時には虐待関連の対応なども院内だけでなく地域関係機関と連携した支援を行っています。

看護師は、看護の視点で、身体面から全体のアセスメントや問題を抽出し、医療的ケアなど継続的な看護についての支援をします。

ソーシャルワーカーと看護師それぞれ他職種だからこそ互いに意見交換し、協働して入退院支援にあたっています。

私たち入退院支援部門は、退院がゴールではなく、住み慣れた地域でその先の生活を見据えた在宅調整をしていくこと、状況に応じて転院や施設調整などの療養選定・調整を行っています。いつも患者さんやご家族の思いに寄り添う姿勢を忘れずに、医師や病棟スタッフ、関連部署とチームを組んで対応しています。

また総合サポートセンターには、がん相談支援センターが併設されています。

がん専門相談員の看護師・ソーシャルワーカーが配置されており、患者さんやそのご家族、地域医療機関・地域関係機関の方々からの相談に対応しています。

2人に1人ががんに罹患するといわれる昨今、治療や生活、仕事や家庭など様々な心配事に対して、相談対応ニーズが高まっています。

治療と仕事の両立は、どうしたらいい？抗がん剤の薬のことや副作用のことを聞きたい・・・など、がんに関わることはなんでも相談可能です。

都道府県がん診療連携拠点病院として、院内外問わず相談対応いたしますので、ご活用いただけたら幸いです。



内視鏡センターのご紹介



内視鏡センター長
山本 頼正

Yorimasa Yamamoto

昭和大学藤が丘病院の内視鏡センターには、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、同専門医 6 名、日本呼吸器学会指導医 2 名、同専門医 3 名が所属し、年間 1 万件を超える内視鏡を実施しております。

当センターでは、2022 年 12 月より全内視鏡室において最新の内視鏡機器への更新を行い、より精度の高い内視鏡診療が可能となりました。

上部、下部消化管の内視鏡検査では、以前より全例拡大内視鏡を使用しており、早期病変を確実に発見し、不必要な生検を避ける安全な検査を実施しています。(図 1)

当センターでは、消化管における早期癌の内視鏡的治療（特に内視鏡的粘膜下層剥離術）を積極的に行っております。最近では内視鏡治療の適応が拡大されており、より手技の難易度が高い病変の治療を行う頻度も高くなっています。(図 2)

内視鏡治療をより安全に行うために、複数の薬剤を併用した鎮静下での内視鏡治療や、麻酔科の協力のもと全身麻酔下での治療も行っております。

また消化器センターとして外科医との連携も密にとっており、外科手術が必要な患者さんの術前術後の内視鏡検査や、最近では外科医と内視鏡医が協力して行う胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も積極的に行っております。

小腸、大腸疾患については、下部消化管内視鏡だけでなく、バルーン内視鏡やカプセル内視鏡を用いて、炎症性腸疾患や原因不明の消化管出血にも対応しています。特に炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）の診療には積極的に取り組んでいます。

胆膵疾患に対しては膵癌・胆道癌の早期発見を目指した超音波内視鏡や超音波内視鏡下穿刺吸引術を積極的に施行しています。超音波内視鏡下ドレナージ術（胆道ドレナージ・膵嚢胞ドレナージなど）の件数も近年増加しております。胆膵疾患に対する超音波内視鏡はその重要性が年々高まっており、今回の内視鏡機器の更新でもスコープ本数を増加させて対応しています。また術後再建腸管症例に対する ERCP、Vater 乳頭部腺腫に対する内視鏡的乳頭切除術、急性胆嚢炎に対する内視鏡的胆嚢ドレナージ術も積極的に行っております。(図 3) 急性胆管炎・急性膵炎など急性期疾患に関しては 24 時間体制で緊急内視鏡が施行可能な体制で診療にあたっております。

以上のように、当センターでは高精度で安全性の高い内視鏡診療を日々行っております。症状を伴う患者さんだけでなく、定期検診の患者さんも積極的にご紹介いただければ幸いです。また上部内視鏡検査につきましては、午前中に食事をせずに受診していただければ、当日に検査を受けていただくことが可能です。是非、当内視鏡センターをご利用ください。

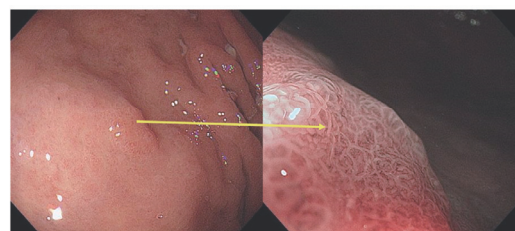


図 1：胃体上部大弯、5mm、粘膜内癌。左図は通常内視鏡観察、右図は Narrow Band Imaging 併用拡大内視鏡観察。拡大観察で早期癌を疑う所見を認め、高精度の検査が同時に可能であった。

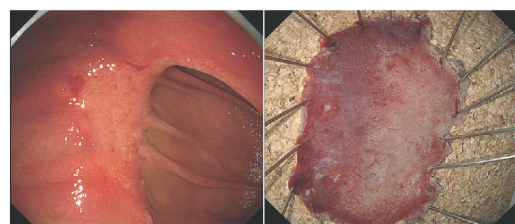


図 2：残胃吻合部、20mm、粘膜内癌。左図は当院での検査時の通常内視鏡観察。右図は内視鏡的粘膜下層剥離術直後の一括切除後の病変写真。

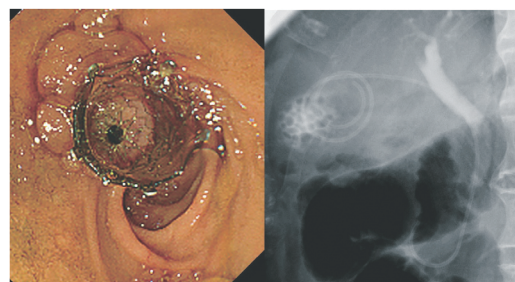


図 3：左図は他院より ERCP 不成功のため搬送された膵癌による閉塞性黄疸症例。超音波内視鏡下に十二指腸から総胆管に金属ステントを留置し減黄に成功した。右図は急性胆嚢炎に対する経乳頭の胆嚢ステント留置術。

医療機関からの初診予約について

日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、創立記念日（11月15日）、当日の予約は受け付けておりません。

電話予約



TEL：045-974-6701

受付時間：月曜～土曜日 8：30～17：00

氏名・生年月日等患者さんの情報を確認させていただき、ご予約をお取りいたします。

FAX予約



FAX：045-974-4325

受付時間：月曜～土曜日 8：30～17：00

「患者保険情報連絡票」を送信してください。

予約状況確認後、予約票兼連絡票を送信いたしますので、患者さんにお渡しください。

※「患者保険情報連絡票」は当院ホームページからダウンロード可能です。

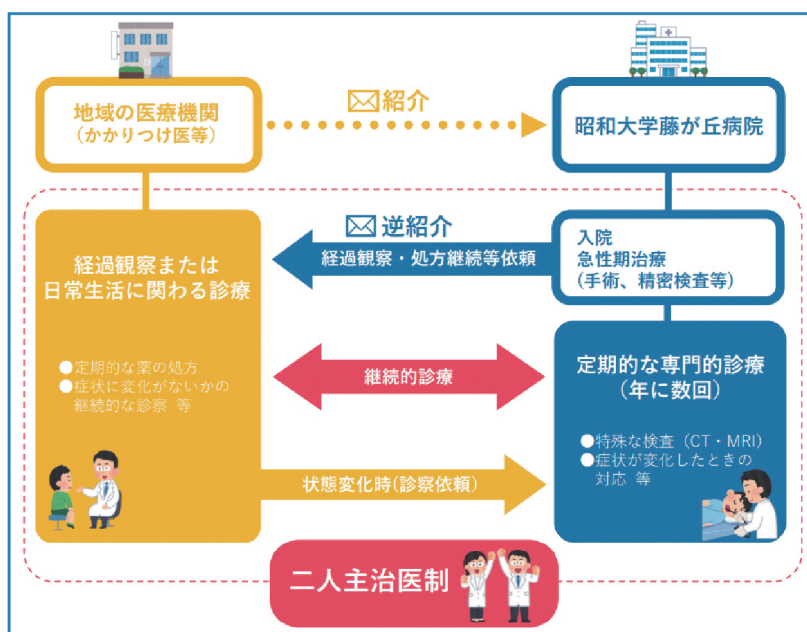
※15分以上経過しても予約票兼連絡票が届かない場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

二人主治医制の取り組みについて

当院では、患者さんの健康管理を地域全体で行い、安心して受診していただけるような医療連携を推進しています。

ご紹介いただきました患者さんは、当院での急性期治療が終了いたしましたら、再びかかりつけ医へ紹介させていただき、かかりつけ医の先生と当院医師が「二人主治医」となり患者さんの治療にあたってまいります。

昭和大学では二人主治医制を附属病院全体のプロジェクトとして取り組んでおります。二人主治医制の推進にご協力いただきますようお願い申し上げます。



藤が丘地域連携フォーラムについて

当院では、地域医療機関の皆様と密接な連携をもとに医療の提供をしたいと考えております。そのためには皆様との「顔の見える連携」が不可欠であり、交流の場として年4回（4月・7月・10月・1月）「藤が丘地域連携フォーラム」を開催させていただいております。

コロナ禍におきましては、ZOOMを用いたオンライン配信での講演となりますが、より多くの皆様にご参加いただきたく、是非お誘い合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

第46回開催予定日：令和5年4月13日（木） 19：30～

